

4 カリキュラム開発

(1) 英語ノートの活用

ア 内容と構成

英語ノートは、学習指導要領に示された外国語活動の目標を達成するための、授業で用いる教材のモデルを示したものです。英語ノートの各単元は、子どもがコミュニケーションの楽しさを体験し、それを通して言語の大切さと表現を学び、外国と日本の文化の特性に気付くことができるように、「外国語の音声への慣れ親しみ」「コミュニケーションへの積極性」「言語・文化の体験を通じた理解」の三要素をからめて構成されています。

「言語・文化の体験を通じた理解」で大切なことは、「差異」だけに着目せず、「共通性」を認識させることです。言葉や文化は違っても人間は共通という考えを持ち、言葉や文化を身近に感じるようになります。また、「外国語＝英語」(外国語は英語だけ)という短絡的な考えを持たせないように、英語ノートでは、英語圏以外の言語や生活習慣をいくつか紹介しています。

イ 英語ノートの活用例

子どもが自らの体験を通して言語や文化についての理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するためには、各学校の状況や子どもの興味・関心を考慮して、子どもが進んでコミュニケーションを図りたくなるような活動を提供することが必要です。

活動を追加したり、順番を入れ替えたりするといった工夫をした単元計画例を、以下に3つ紹介しますので参考にしてください。

(ア) 一人一人の子どもの学び方に配慮する

授業者には、全ての子どもが中心となるコミュニケーション活動に自信を持って参加できるように、スモールステップで活動を構成することが求められます。

⇒ P19～21「単元の構想」及びP74「英語ノートの活用例(1)」参照

(イ) 国際理解と子どもの興味・関心を結び付ける

外国の文化や習慣などに触れ、同時に日本の文化や習慣を改めて見直すことは、国際理解への第一歩となります。

英語ノート1「Lesson 9 ランチ・メニューをつくろう」の単元は、友だちの食べたいものを尋ね合い、グループでオリジナル・ランチ・セットを考え、紹介し合う、という流れになっていますが、このオリジナル・ランチ・セットのメニュー作りを、「国際交流パーティーを開くとしたらどんなメニューを考えるか」という課題に変えます。これにより、食べたいものを尋ね合う必然性が生まれ、外国の食文化への興味・関心が高められ、子どもの想像が膨らみます。

⇒ P75「英語ノートの活用例(2)」参照

(ウ) 他教科・領域との関連を意識する

外国語活動以外の授業で学習したトピックを用いることで、子どもの実態により近づいた内容の活動を設定することができます。

小学校社会科では、世界の国々を扱う内容が示されています。第5学年では20か国程度の国名とその位置を扱います。さらに、第6学年では、「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子を調べる」という学習内容が示されています。これらの単元と英語ノートに関連させることで、子どもの伝えたい思いが一層高まっていきます。

⇒ P76「英語ノートの活用例(3)」参照

(2) 身近な事柄を題材とした活動例(静岡県ならではの内容)

外国語活動では外国の文化のみならず、我が国の文化を含めた様々な国や地域の生活、習慣、行事等を積極的に取り上げていくことが期待されます。その際には、子どもにとってわかりやすく馴染みある身近な題材を用いて、子どもの興味・関心を引き出すことが大切です。

77ページ以降に示す活動例は、身近な地域の題材を生かして考えた単元例であり、静岡県に関連の深い歌や物語を取り上げることで、静岡県について理解を深め、興味・関心を高めていくきっかけとなることをねらいとしています。

(3) 資料一覧

- 英語ノートの活用例(1) 英語ノート2「Lesson 3 友だちの誕生日を知ろう」 P74
- 英語ノートの活用例(2) 英語ノート1「Lesson 9 ランチ・メニューをつくろう」 P75
- 英語ノートの活用例(3) 英語ノート2「Lesson 6 行ってみたい国を紹介しよう」 P76
- 身近な事柄を題材とした活動例(1) 「平成版かぐや姫を劇で表現しよう」 P77
- 身近な事柄を題材とした活動例(2) 「私のふるさと」 P83